



2025年のスタートは、1月3日の天満天神繁昌亭の「新春公演」に始まり、4日も繁昌亭で「花菱の会」、5日が古々粋亭の「新治・福楽二人会」と続きました。

新治兄さんとの会は4回目、毎回大勢のお客様がお越しくださいます。お兄さんとは私が大学生で入門した頃からの付き合いで、45年の月日が経ちました。その頃から今日まで、私はお世話になりっぱなしで、今年こそ恩返しをするつもりです。知らんけど。



新治兄さんは、私のミニ独演会「福楽の底力」と本紙「福ラッキー」共に最多出場です。

まず最初はトークショー。二人揃って高座で喋ると、いつも話が噛み合いません。

今年はお正月に一年にするんじや

に、私が「二人旅」と「富久」、新治兄さんが「面割狂言」に「怪気の独楽」。名人芸で名高い先輩に一杯ぶつかって、3時間にもおよぶ熱い高座となりました。

残念なことに落語喫茶・古々粋亭さんは2月9日で閉店されますので、この場所での当会は今回が最後となりました。私は2月8日の「芸者さんと落語の会」がラストとなります。新治兄さんとの有意義な二人会は、会場を移して継続します。へビーな年にしたいので、次回は武道館で！(嘘つけ)



【撮影】桂 福留

芸人の新年会ではないですよ。福ラッキーを毎年ご覧の方はわかりですね。1月恒例の、あそこです。

ご存知の顔は何人いるでしょうか？私も写ってますね。



最後は大阪締め。左は大眾ソウルシンガーのインディさん。色々とお手伝いをしていただきました。

昭和100年に当たる今年は今古き良き時代にスポットがあたってきました。昭和歌謡などのブームにあわせて落語もさらに注目されるよう高座を勤めてまいります。節目の年に大きな飛躍をしたいものです。



梅団治、春雨、私、花団治。みんな味のある顔してまんな。(敬称略)

去年の11月に神戸の西区文化センターで開かれた「なでしこ寄席」は、10回の節目というところで、「花菱の会」の出張公演となりました。(花菱)とは落語家の家紋のひとつで、春団治一門の謂わばマークなんです。メンバーは三代目春団治直弟子の梅団治さんと春雨さん、孫弟子の花団治さんと私の4人です。元は弟子の福車君が入って来ましたが、天国へ旅立った為に私が代わりに入れてもらいました。つまり私は新参もんで、楽屋では小そうなって舞台ではいじられてます。(ホンマか)

花菱の会は年に2回、天満天神繁昌亭で開催。今回は7月27日(日)の朝席です。芸歴40年以上の芸風が違う4人の高座をお楽しみください！

●今年「乙巳」(きのとみ)と言われる年で、「物事が再生や変化を繰り返す柔軟に発展していく」というので、柔軟に発展して分かれやすいような分かんないような。2015年の1月に準備号を発行した「福ラッキー」。おかげさまで10周年を迎えることができ、41号ではプッチリニューアルを予定しておりますのでご期待ください。バックナンバーも桂福楽オフィシャルサイトからご覧ください。(編集長のようなもの)

毎月21日に開催している「福楽の底力」。2006年の1月にワッハ上方の上方亭でスタートし天満天神繁昌亭を経て、現在の会場である動楽亭での公演が12年目を迎えました。私が必ず二席演じる小さな独演会で、年に数回ネタおろしや三題噺も披露。そして毎回多彩なゲストを迎えます。

平日は午後7時、土日祝は午後2時の開演です。大阪メトロ(地下鉄)動物園前駅1番出口から徒歩30秒、走ったら7秒(個人差はありますが)の便利な動楽亭です。皆様のお越しを心からお待ちしております。



60才を過ぎてても若々しい勢朝さん。私は若い時から年齢より上に思われてたんで、羨ましいかぎりですわ。



太鼓の譜面帳を染雀さんが持参。元々私が持ってたもので、桂米左さんを経由して彼の所で活用されていました。



落語家が舞台上に上がる時に使う出囃子の実演です。太鼓は私、他の鳴物(邦楽の打楽器)は春雨さん、笛を月亭希遊君、三味線がはやしや薫子さん、という顔ぶれで演奏しました。ご好評をいただき悦びに入っております(笑)

■福楽会入会のご案内

【入会金】 無料  
【年会費】 福楽カード2枚  
福楽カード...1枚1000円  
福楽会主催公演とグッズ購入にご利用いただけます

【更新】4月一斉更新がまだの会員様は手続きをお願いします

【会員特典】  
①福楽会主催公演は当日も前売料金  
②主催公演では会員用スタンプカードの利用で6回に1枚福楽カードを進呈  
③福楽会の集いに優先案内と割引  
④会員登録発行  
⑤「福ラッキー」を手渡し又は送付

【入会申込み方法】  
①福楽会主催公演会場や彦八まつりの福楽ブースに申し込み用紙をご用意  
②左記の連絡事務所迄ご連絡ください  
※口座を開設しました。入会にご利用いただけます。書類のお申込み後に郵便振替またはお振込いただき、着金を確認しましたら、福楽カードを郵送させていただきます。更新手続きにもご利用ください。

郵便振替：0099006333556  
口座名：福楽会  
（お振込の場合）  
店名：ゆうちょ銀行 〇九九店  
種目：当座 口座番号 03333556

次号「福ラッキー」は春に発行予定。福楽会主催の落語会で配布。お渡しできない会員様には郵送。更新済みの方のみ\*主催でない出演時に配布もありません。\*各号なくなり次第配布を終了します。

ご感想や投稿、入会のお問い合わせ等  
TEL 045-0003  
大阪市阿倍野区美草園1丁目731402  
桂福楽連絡事務所  
TEL&FAX 06-662428068  
kanigatarakugo.fukuraku@gmail.com

発行/福楽会  
題字/いわみせいじ  
企画制作/福ラッキー編集チーム

司法書士は、身近な街の法律家です。お気軽にご相談ください。

■不動産登記  
■会社・法人登記等

中井深田司法書士事務所  
TEL 06-6363-2521  
大阪市北区西天満4丁目8番8号  
n-office@iris.eonet.ne.jp  
http://nf-office1933.com/

楽しく歩いて健康づくり  
アイアイクック  
近鉄長野線「富田林駅」東に1分  
https://www.iikook.com/  
予約 ☎0721-23-5553

のうか 苗加病院  
医療法人康和会  
診療科目 整形外科・内科  
リハビリテーション科・在宅医療  
泌尿器科・皮膚科

西淀川区姫里2-17-21  
☎(06)6471-0015

苗加病院デイサービスセンター  
ゆいのもり 募集中!!  
西淀川区姫里2-16-24  
☎(06)6471-5555

良い耳で 良い噺

つげ耳鼻咽喉科  
〒443-0045 愛知県蒲郡市旭町4-15  
TEL 0533-68-1187 FAX 0533-68-9006 院長 柘植 勇人 Isato Tuge

阪急今津線「門戸厄神駅」から1分の「門戸寄席」。元は向かいにあった居酒屋の別館を、ご夫婦で借りて改装し、4年前にオープン。私の会もKY企画の山口さんの主催で年2回開いていただきお世話になってます。ビルの建て替えにもない今春から1年間休業されるのを前にお話を伺いました。

### 桂福楽の「この人に聞きたい」 4年で公演数は倍増、次の飛躍へ 門戸寄席オーナー 安田典彦さん・光子さん

■ここで落語会が始まったきっかけは  
安田：家内の妹夫婦が経営する居酒屋「じゅとう屋」がやっていた時にアマチュアの方が落語会をされて、それをたまたま見かけた笑福亭由瓶さんが、やりたいといって来られたのが最初です。  
■それから徐々に？  
安田：私達や山口さんが落語会の企画を持ち込んだりしました。今と同じように山台を設営してやっていたのです。光子：コロナ禍が始まるとお店ではお弁当とかをされて、別館の方は手放すことになった。その頃は、数人の噺家さんと繋がりができていたこともあって、私達が借りることにしたのです。厨房だった所を楽屋に改装して「門戸寄席」の看板をかけてオープンしました。

■奥様は落語をされているとか  
光子：ここで純瓶さんが落語教  
安田典彦：1955年2月大阪府茨木市生まれ、元小学校校長。  
安田光子：1954年12月兵庫県西宮市生まれ、予備校講師。  
2020年11月門戸寄席をオープン。

■休業中はどうされますか  
光子：資金集めとか現実的なことをやらないといけないのと、1年の間に興行がどういうものか勉強させてもらおうと思います。  
安田：再開するとなったら、今  
■再開後にやりたいことは  
光子：まずは今来てくださった噺家さん達には全員出ていただきたいです。忘れないでほしい。  
安田：KY企画の山口さんと、オープンングはちんどん通信社さんをお願いすると決めています。駅  
■再開を楽しみにしています。これからもよろしくお願い致します。

室をされていますので、寄席をやる勉強になるだろうと習い始めました。空想亭ビノ子で、アマチュアの会に出させてもらってます。  
■年間の公演数は  
安田：今は月平均15回ぐらい。ほぼ土日だけで、やる日数は少ないですが、朝席・昼席・夜席という日もちよこちよこあります。最初の頃は年間80か90でしたが、丸4年経って180越えたかな。  
■仕事はいつからですか  
安田：3月で閉めて4月から。ビルの所有者がここを全部取り壊して更地にして建て直されるので丸1年かかるようです。再開は来年4月頃でしょうね。



■落語会の開催は  
光子：ここで公演してくれている方の会は、それぞれ出張門戸寄席“みたいな形でどこかで一度はやっていたかと思うと思っています。  
安田：この間、喜楽館の伊藤史隆さんが来られて「休んでる間に喜楽館を借りて門戸寄席をされませんか」と言ってくくださったのは嬉しかったですね。しかし、キャパがかなり大きくなるのでハードルが高い。光子：収支とんとん程度にできる方法があるようでしたらぜひやりたいですけれど。  
■再開後にやりたいことは  
光子：まずは今来てくださった噺家さん達には全員出ていただきたいです。忘れないでほしい。  
安田：KY企画の山口さんと、オープンングはちんどん通信社さんをお願いすると決めています。駅  
■再開を楽しみにしています。これからもよろしくお願い致します。

度には私達が動けなくなるまでやろうと思えばやれるわけですが、続けられるようにやらないと。経営的にもつと勉強しないとけないと思っています。  
■落語会の開催は  
光子：ここで公演してくれている方の会は、それぞれ出張門戸寄席“みたいな形でどこかで一度はやっていたかと思うと思っています。  
安田：この間、喜楽館の伊藤史隆さんが来られて「休んでる間に喜楽館を借りて門戸寄席をされませんか」と言ってくくださったのは嬉しかったですね。しかし、キャパがかなり大きくなるのでハードルが高い。光子：収支とんとん程度にできる方法があるようでしたらぜひやりたいですけれど。  
■再開後にやりたいことは  
光子：まずは今来てくださった噺家さん達には全員出ていただきたいです。忘れないでほしい。  
安田：KY企画の山口さんと、オープンングはちんどん通信社さんをお願いすると決めています。駅  
■再開を楽しみにしています。これからもよろしくお願い致します。



### 天満天神繁昌亭 新春特別公演 (1月3日第2回) 楽屋風景プラス



今年初の公演は初めて大喜利が組み込まれたので、その分人数も大勢です。華やいとお正月の楽屋で、みんな楽しそう。後列左から、三味線のはやしや都美礼と入谷和女、笑福亭呂翔、桂源太、桂文福、桂りょうば、笑福亭学光、桂梅枝、桂三度。前列左から、私、桂文太、桂春雨、笑福亭鶴笑。(敬称略)



落語の演者は黒文字で、それ以外の芸人は赤文字で記します。私は大喜利の出番だから赤いんです。これは私史上初めてのことで。



門松や餅花でにぎやかに彩られた繁昌亭の正面。  
大喜利のあいだ舞台の撮影OKでした。  
繁昌亭出演情報  
2月24日(月)から3月2日(日)までの1週間、昼席で私が初めてトリを勤めます。是非ともご来場くださいませ。

桂福楽の人生相談  
「お悩み」なぜか電車の乗り換えが大の苦手です。2回までが限界で、3回目になると理由はわかりませんが、ものすごく疲れます。解決法をお願い致します。  
(大阪市 落語家 桂三度)

桂福楽の人生相談  
「お悩み」なぜか電車の乗り換えが大の苦手です。2回までが限界で、3回目になると理由はわかりませんが、ものすごく疲れます。解決法をお願い致します。  
(大阪市 落語家 桂三度)

桂福楽の人生相談  
「お悩み」なぜか電車の乗り換えが大の苦手です。2回までが限界で、3回目になると理由はわかりませんが、ものすごく疲れます。解決法をお願い致します。  
(大阪市 落語家 桂三度)

1面のクイズの答えは  
堀川戎神社の「えべっさん」  
毎年「関西演芸協会」の芸人がお手伝いをしています。この協会は1949年に設立された団体で、漫才、落語、講談、奇術、曲芸、漫談、歌謡など、さまざまなジャンルの者が所属しています。※1面の写真はゲストの大村崑先生と、桂福楽協会長の田んた控室の1枚です。  
令和7年「関西演芸協会まつり」は2月11日(祝)エルセラールホール  
1回目10:30/2回目15:45開演  
前売3,000円 当日3,500円  
主催・問合せ: 関西演芸協会 06-6622-7848  
1回・2回あわせて60組の協会員が出演! 福楽も2回目に登場します!  
堀川戎神社は南森町駅の近くです  
福笹御奉仕をする大村崑先生の前には長蛇の列 左は田淵岩夫師匠

小学生の頃から演芸好きの私  
はけつたいな子供でした。年の離れた姉と兄がいてる末っ子で、甘やかされて育ちました。そのやのになんか妙に大人びたところがありましてね。勉強は出来るけどスポーツが大嫌いで、体育の時間が苦痛でした。親が行かした水泳教室が嫌で嫌で、最後まで好きにならなんだんです。身体も気いも弱いくせに人前で芸をするのは好きで、学校の旅行や卒業間近の茶話会では漫才やコントの台本を書いて喜んで演ってました。この頃は頭脳労働者を目指してつたんですけれど、中学に入ったら英語が出来んようになってアホな生徒になつてもた。けども演芸好きは変わらず、同級生と落語研究会を作りましてん。中学のオチケンで珍しいんですよ。まだ12才やのに年寄りくさいとがあつて、古典落語が合おたんすな。  
私が落語に興味を持ったんは笑わすことよりも、居てない人に喋る、無いもんを持つ、扇子だけでどうんを食べる、座布団の上が家になつたり、船になつたり、山になる。こんな独特の演じ方が大好きなんですわ。高校生の時は音楽部に入つてエレキベースを弾き出すんですけど、合宿の余興で落語を演つてましたから、演芸熱は冷めてません

ねん。大阪芸大の文芸学科に行つたんは、お笑いの作家になろかいなと考えてたからで、落語家になるとはこつから先も思てませんでした。なんでか言うとは徒弟制度の厳しさが怖かつたんですわ。それが二回生の夏に家でシャワーを浴びてる時「落語家になろ」と思たんです。ホンマでつせ。神さんのお導きなんですすか。自分でも不思議ですんねん。  
1979年の12月に師匠の桂福団治に入門して45年が経ちました。よう怒られた弟子でしたわ。それから結婚、別居、離婚。精神病になつて休業と復帰。いろんなことがありましたが、そんなもんと私の発想が練り合はつて自分の落語が出来ていったんですな。そんな芸風をいつ誰が言い出したんか忘れましたが、「福楽ワールド」と名付けられたんです。今更言うのもななんですけど、このコーナーはそれを語つてますねんで。知らんかった?  
12年前にこの世界に戻つてからは、江戸落語に力を入れたり三題噺に挑んだり、ベース漫談もしてますねん。これからの「福楽ワールド」はどうなりますかとやら。  
いよいよ次回は最終回。これは見逃せませんぞ。(つづく)